

島根高P連だより

第65号

2023.12.15

発行
編集

島根県高等学校PTA連合会事務局

松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735

E-mail: shimakp@orange.ocn.ne.jp URL: https://shimakp.jp/

高P連
ホームページの
QRコード



津和野高校



鍛錬行事(つわぶき街道強歩)45.8km



鍛錬行事前日、宿泊



体育祭



文化部合同公演JAM



県総体壮行式

松江工業高校



中学生体験入学



文化祭
吹奏楽部と教職員のコラボ



体育祭
開会式選手宣誓



1年生県内企業視察研修
(環境科学科・田志園)

出雲農林高校



2年生インターンシップ
(動物科学科・牛舎の清掃作業)



創立90周年記念式典
(生徒会長あいさつ)



農業祭
(出農そば部による実演披露)

目次

- 令和5年度高P連研修会
- 第72回全国高P連宮城大会
全国高P連会長表彰実践報告 皆美が丘女子高校PTA
- 全国高P連会長表彰実践報告 隠岐高校PTA
PTA活動振興功労者表彰受賞報告
- 第65回中・四国高P連岡山大会
第67回中・四国高P連島根大会の準備状況
- 世界大会出場 会長激励費贈呈 島根中央高校力又一部
幼こども園・小中・高・特別支援PTA合同研修会

令和5年度高P連研修会

社会福祉法人ひより会 いそけ保育園園長、笑う門にはいい介護の会代表

高P連前会長 中村 学氏

「笑う門にはいい介護」

令和5年度島根県高等学校PTA連合会研修会は十二月二十一日(土)に出雲市民会館で開催し、二十二名の参加がありました。講師は社会福祉法人ひより会 いそけ保育園園長で笑う門にはいい介護の会代表の中村学氏で、笑う門にはいい介護というテーマでお話をいただき、介護と子育てについて考える機会となりました。以下は、講演の概要です。

母親の介護について

大田市に生まれ、大田高校を卒業し、東京で大学生活を送った。小学生の頃から人を笑わせるのが好きで、二十歳の頃には『笑っていいとも』にも十二回出演した。一九九四年、東京に吉本興業が進出すると聞き、オーディションを受け、合格し、吉本興業所属の芸人となった。同じ期生にはロンドンブーツや極楽とんぼがいる。吉本興業の芸人二年目の三十歳の時に母親が脳梗塞で倒れ救急車で搬送されたという連絡が入り、人生が大きく変わった。母親は退院後一人暮らしは難しいということになり、自分が介護するようになった。

介護の初日、おむつを替えることからスタート。おむつのどちらが前後かわからないほどで、ノウハウセロからスタート。腹は立つし、イライラし、泣きそうだった。その当時は母親のそばにいなければならぬと思い、動けなかった。スヤスヤ寝ている母親のそばで本を読めるなど介護以外の時間は楽しい面もあった。しかし、友人との交流もない中、だんだんストレスがたまり、母親の介護をしている限り「俺の将来が見えない」と思い始め「俺の人生をめちゃくちゃにした」母親を憎たらしく思うようになった。母親も自分も笑顔がなくなっていた。自分は常に怒った顔になり、暴言もはくようになった。最低限度のことしかしなくなってきた。そのような生活が五年間続いた。

そんな中、母親がデイサービスに行くようになり、ある日、介護士に母親が笑顔を見ていることに気づいた。いつも自分は不機嫌そうにしていたので、家では母親の笑顔はなかった。母親は笑顔でいいかと思っていた。「母親も笑うんだ」と新鮮で衝撃的だった。その介護士は、芸人の経験もある自分ができるのに母親を笑顔にした。「すごい」と思うと同時に「介護は人を元気にできる」と気づき、介護という仕事は面白そうだと考えはじめ、介護士の資格を取った。

ところが、介護の知識や技術を持っても、家では

母親に「うら当たり、優しくできなかった。荒々しい感情の土台の上にある知識と技術は母親に対しては役に立たなかった。自分自身が母親に対して暴力を振るうのではないかと怖かった。

あるとき、昔の芸人仲間「何か目標はあるの」と聞かれて「目標は、介護の世界で高齢者を笑顔にする力を身につけて、島根から発信したい」と言った。一方で母親とはうまくいっていないとも言った。すると、彼は他人のお年寄りさんを笑顔にすることはわかるが、自分のお母さんを笑顔にできない。おまえの言っていることは軽いと言ってくれた。この言葉は突き刺さった。

あるとき地域の集まりで介護の話をしてくれと頼まれた。そのときに、母親の介護をありのまま話した。すると「もう言った。あんたの言う通り。腹が立つてしょうがない。」と共感する人が多かった。介護でつらい思いをしている人はたくさんいると思うようになった。

厚生労働省のアンケート調査によれば介護をしている四人に一人が鬱状態で、心理的に負担を感じているそう。要介護者も大変だが、介護者も精神的に苦しんでいる。介護に悩んでいる人はたくさんいるということがわかった。

その頃から介護についての講演活動を始めた。介護をするときの自分の失敗が笑い話のネタになり、聞く人のエネルギーになることに気づいた。ある夏、携帯をポケットのポケットに入れて母親を介護していたら、ポータブルトイレの中に携帯を落とした。すると着信があり「ウーン、ウーン」と携帯が鳴り出した。この話を笑い話にした。介護を笑い話にすることができるようになっていた。すると、だんだんストレスを感じなくなり、母親との関係もよくなった。三十九歳の時に「お母さん、産んでくれてありがとう」と感謝の言葉が言えた。今まで暴言を吐いてごめん」と謝ることができた。母親に接吻したり、抱擁できるようになった。考え方が変わったのだ。

自分が四十歳の時まで、十一年間母親を在宅介護したが、その後、母親は施設に入ったり、入院したりした。亡くなる直前の四週間は何を話しかけても、何も言わない状況であった。

以前見たテレビ番組で、交通事故で植物状態になった人がいた。ヘッドホンで、鳥のさえずりや波の音など様々な音を聞かせるが、その中に奥さんと子供の声を聞かせる。するとつけた脳波計の脳波に変化が起きていた。

「よく来てくれたな」というような反応をしている。

後悔しない看取りをするためには、反応がなくなっても日常的な会話を話しかけることだ。最期の最期まで声をかけ続ける介護が大切だと信じている。自分の三人の子供には最期まで話しかけさせた。子供は退院したら公園に行こうね」と退院後の話をした。母親はいつ亡くなってもいい状態だったが、四週間生き続けた。母親は私たちが後悔しないように少しくも長く生きてくれたのではないかと思う。最初の頃のように母親に暴言を吐いたままの状態をなくならないから、自分の介護は「悔い」にならないうちからいらない。実際には最期の看取りもできた。母親の介護や看取りを通して、介護のこと、命のこと、寂しさ、達成感を含め、いろいろなことを学んだ。母親を通じて、行政の人、施設の人、救急隊の人などいろいろな人と関わりを持ち、自分は大人として成長したと感じた。「介護とは親が命がけでする最期の子育て」と思っている。

介護の時に笑顔がなくなる家庭がたくさんあるが、「介護の時は笑顔で包み、最期の最期は涙で送る。」という関わりをして欲しい。

「快GOッアー」についてDVD視聴

介護の話がマスコミで取り上げられると、「介護は大変」「介護難民」「介護鬱」など否定的な言葉で語られることが多く、介護のイメージがますます悪くなる。

ある晩、幼稚園から高校まで一緒に宮根誠司さんから「介護ツアー」を持ちかける電話があった。ある旅行会社の「カリスマ添乗員」と呼ばれる平田さんと組んで、「介護する側も介護される側も楽しむツアー」を行うことになった。そのツアーは、脳梗塞で倒れ、半身不随で車椅子生活のKさんと妻のAさんを石見銀山、三瓶温泉、三瓶小豆原埋没林、砂の博物館に案内する泊二日の旅行だった。

Kさんはゆつくり病気になるまで動けなくなったのではない。工務店の社長で、従業員もたくさん雇っていたが、ある朝、突然倒れ、脳梗塞になり、生死をさまよい、半身麻痺と言葉もたどたどしい状態になった。元々Kさんは旅行が好きであったが、介護状態になってからは外出もせず、デイサービスにも行かず、閉じこもっている。そんなKさんを見て奥さんは、情けないと感じていた。奥さんは、元気な頃の頑張りを知っていたから、なんとか笑顔になつてもういたいと考えていた。そんなときに、宮根さんが企画した「介護ツアー」を知り、奥さんがKさんに勧めたが、最初は「ウーン」と言わない。お父さん、今まで悪いことや恥づかしいことしてきたの？そうであれば家に閉じこもっていいない。そうじゃないでしょ。堂々としてよ。お父さんのこと、恥づかしいと思ってい

ないわよ。」そこからKさんの心は動き、「介護ツアー」に参加した。

Kさんは「介護ツアー」で楽しさを感じ旅行好きなKさんの心に火がつき、積極性が戻った。Kさんは、医者「生車椅子での生活になる」と言われていたがこのツアーをきっかけに歩けるようになり、好きな旅行にも行くようになった。

誰にも人生の軌跡「その人が付き合った人がいて、仕事で貢献したとて、人を笑顔にしたこと」などがある。その人が生まれてから介護が必要になるまでの「人生の軌跡」を踏まえた配慮や介護が重要だと思えている。

「楽しい」「嬉しい」「面白い」「わくわくする」が介護の状態になると後回しになる。引きこもりになったり、喜びも楽しみも少ない状態になる。それでは元気がならない。最低限度の介護では元気がないのだ。介護する側も「最低限の介護で十分だ」と考えてしまう。多くの介護は、最低限度である。何歳になっても「楽しい」「嬉しい」「面白い」「美味しい」「面白い」「美味しい」が感動することが積極性の原動力になる。

講演会を聞いて参加者の感想(抜粋)

・「介護」という言葉は知っていましたが、その本質を教えていただいたような気がします。
・中村様のお母様の介護の経験を赤裸々に語っていただき、今までの研修の中で番心に響きました。
・感情の土台が荒々しいと知識や技術が難になる。この言葉に納得し、教訓とさせていただきます。
・私の両親はまだ元気に過ごしていますが、いずれは始める介護に向け、本日の話を聞いてほしいなと思います。
・介護は親が命がけでする最期の子育て」と仰りましたが、介護は子育てにも通じる点があるのだと気づかされました。

なお、今回の講演の内容を含めた中村氏の著書「笑う門にはいい介護」が風詠社から発売されています。



研修会の様子

第72回

全国高等学校PTA連合会大会 宮城大会

「豊かな杜につむぐ虹の光」しなやかな強さで生き抜く力

今年の全国大会は八月二十四日(木)二十五日(金)に仙台市のカメイアリーナほか五会場で開催された。全国から五千名を超えるPTA関係者が集い、島根県からも五十九名が参加した。またオンライン配信も行われ、島根県からは三十三校が参加した。

大会第一日は、六力所の会場に分かれて、それぞれ基調講演とパネルディスカッションが行われた。

大会二日目の開会行事の後に表彰式が行われ、島根県からは次の団体と個人が受賞された。おめでとーいぞいます。

○全国高P連会長表彰(団体)

皆美が丘女子高校PTA、隠岐高校PTA

○役員等表彰

中村 学さん

(前島根県高P連会長、前大田高校PTA会長)

○PTA活動振興功労者表彰(文部科学大臣表彰)

大屋 光宏さん

(第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会実行委員会会長、元島根県高P連会長、元矢上高校PTA会長)

勝部昌幸さん(前島根県高P連事務局長)

その後、記念講演が行われ、講師は昨夏の全国高校野球選手権大会で優勝、今夏でも準優勝を果たし、前日に甲子園から帰県したばかりの仙台育英高校の須江航監督で、「伝わる言葉」失敗から学ぶ」という演題で自らの経験に基づく指導理念を熱く語られた。

昨夏の優勝インタビューで「青春って密なので」と語り、流行語にもなったが、今夏の決勝戦後に語った「人生は敗者復活戦」という言葉に触れ、「人は負けから多くのことを学ぶ。大切なのは挫折との向き合い方だ」と説かれた。

須江監督は次々と示唆に富んだ言葉を紹介されたので二部を掲載する。

「うまくいかないときは人生を一度角度を変えろ。90度は無理だが一度なら努力できるし、到達点は大きく変わる」「我々は何に向かって走る

のか具体的に提示しないと走れない。いいから走れ!」は通用しない。例えば、0.1秒早く走ると70m早くなり、アウトがクロスプレーになる」「短所に丁寧に対処しないと長所を飲み込んでしまふ」「失敗を許容し、挑戦できる環境づくりが大切」「賛同の多いことは時代遅れである。挑戦と行動する姿を生徒に見せたい」「生徒の成長には、情熱と粘り強さと素直さが鍵を握る」「粘り強さとは、瞬発力ではなく持久力であり、成否が見えるまでやりきること。意見や価値観が異なることを面白くと思え」「目標に対して大きな変化を持ち込むと継続できない。一つ一つ乗り越えられる目標設定が大事」

講演テーマの「伝わる言葉」について、「伝わる言葉は相手が聞きたいこと。生徒が求めるものを知り、丁寧な対話を心掛けるしかない」と一人一人の成長のために丁寧な対話を心掛け、野球選手としてだけでなく人としての成長を促す指導を心掛けておられる須江監督の指導理念は視聴者の共感を呼んだ。最後に「子どもは人生に彩りと喜びを与えてくれる存在である」と講演を締めくくられた。

講演後、閉会式が行われ、山田博章全国高P連会長より閉会の挨拶があり、さらに次期開催地である第73回全国高P連茨城大会実行委員長に大会旗が手渡された。その後、茨城県のPRビデオが上演され、茨城大会への参加を呼びかけられ、大会が終了した。



開会式

第73回全国高P連大会 茨城大会

とき 令和六年八月二十二日(木)二十三日(金)

ところ 水戸市

なぜ 歴史の町で変革を!!

〜新たな時代が目に入らぬか〜

全国高P連会長表彰実践報告

皆美が丘女子高等学校のPTAの取り組み

松江市立皆美が丘女子高等学校 PTA会長

渡部 知和

令和五年八月二十四日・二十五日に開催されました「第七十二回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会」におきまして、全国表彰をいただきました。これまでは、全国表彰をいただきました。これまでの会員の皆さまの地道な活動とご努力が認められ、大変喜んでおります。

市立皆美が丘女子高等学校は本年度創立七十周年を迎えました。七十年という長い歴史は学校側だけの努力ではなくPTAや保護者の協力もあつたうえに地域住民の方々の支えもあつたからだと思うております。

学校とPTAそして生徒それぞれの関わり方は歴史のなかで変わって来ましたが、先生方の生徒を思う「気持ち」、保護者が子ども達を思う「気持ち」これは今も昔も変わらないものだと思います。

本校PTAは会長名、副会長三名を中心に活動しています。また役員は「研修部」「広報部」「企画交流部」に分かれ、各部毎に保護者、教員を配して活動計画を立てて活動しています。

「研修部」は、主に学校へ講師を招き、生徒はもとより保護者にも講演会に参加して頂き幅広い分野での講演会の実施、「広報部」では「女子高PTA会報」を年二回発行する為に原稿依頼や編集作業を担当、「企画交流部」は二学期に開催される

文化祭での物品販売、ロードレース時の給水所での水分補給、ゴール後のアイスクリーム配布等の活動と、どの委員会も無理のない範囲で楽しく参加出来る事と、生徒たちが楽しんでくれることを考え活動しております。

コロナウイルスが流行る前の委員会活動では、校舎周辺の草刈りや清掃活動、ロードレース終了時に豚汁をふるまうため委員さんが早朝から準備していたそうです。このように委員である保護者も参加し生徒達と一緒に楽しめる行事があることで学校、生徒、PTAの輪が出来ているのだと思います。

この先も生徒である我が子達が学校生活をエンジョイ出来るよう会員一人一人の力は小さいですが各部で力を合わせ更には役員全員の力を持つてより良い学校生活の手助けが出来ると尽力して行こうと思っております。



文化祭での物品販売



ロードレースでのアイスクリーム配布

全国高P連会長表彰実践報告

隠岐高等学校のPTAの取り組み

島根県立隠岐高等学校 PTA会長 野津 竜也

令和五年八月に開催された「第七十二回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会」において、本校PTAは「全国高P連会長表彰」を受けました。今年度の活動に限らず、以前からの会員の皆様の活動が認められたものと、大変喜んでおります。

本校PTAは会長一名、副会長四名、監事三名、各地区から選出された十八名の評議員を中心に活動しています。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、活動を中止したり、規模を縮小して行ったりする活動もありましたが、例年、学園祭での保護者模擬店、ロードレース大会での給水・夏祭りでのパトロールなど、地道な活動を続けてきました。令和四年度には、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されていく中、少しでも生徒の思い出になればとロードレース大会でのかき氷配布など例年にはない企画を立ち上げて行うこともありました。過去には、通学路の定期点検を行い、暗い道でも安心して下校することができるよう町への陳情等を通して街灯の設置を実現させるなど環境整備を行っています。

また、教職員の皆さんの力を借りて教科の学力向上を目指した土曜補習や模

擬試験を実施したり、休日や長期休業中に生徒に学習の場を提供する登校学習を設定したりしてきました。

本校は今年で創立百十周年を迎え、十月二十二日には記念式典を行うことができました。このような記念すべき年に受賞できたことは、これまでPTA活動として他校と違った特別にすぐれた活動を行ったというわけではありませんが、日々生徒が安心して生活を送り、日頃の学習や学校行事が有意義なものになるように地道に活動を続けてきたからだと考えております。今後も生徒のことを第一に考え活動を続けていきます。

今回の受賞に際しまして、島根県高P連をはじめ関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。



学園祭模擬店出店



ロードレース大会でのかき氷配布

文部科学大臣表彰 「PTA活動振興功労者表彰」受賞報告

令和五年度第七十二回全国高P連大会宮城大会において、令和三年八月に開催された第七十回全国高P連大会島根大会の実行委員会会長の大屋光宏さんと前高P連事務局長の勝部昌幸さんが五年に度の「PTA活動振興功労者表彰（文部科学大臣表彰）」を受賞されました。お一人には左記のようにご寄稿いただきました。

「たかがPTA、されどPTA」

第七十回全国高等学校PTA連合会大会実行委員会会長 大屋 光宏

元島根県高P連会長 元島根県PTA会長

たまたま、三人の子どもが三年ずつ離れていたため平成二十四年から九年间高校生の保護者をさせていただきまして。ちょうどこの時期は、生徒数減少により学校運営もPTA運営も非常に厳しさが増すなかで、県が高校魅力化事業をはじめたところでした。方で、社会が劇的に変化の中で、高校生にこれらの社会を生きるための能力を身に着けるため、大学入試そして高校での学習も大きく変化する、激動の時代でもありました。

高校生の保護者として子どもを社会に送り出す大きな責任と不安を感じの中で、PTA活動等を通じて多くの学びの場を得られたことは、大きな心の支えになりました。

また、あわせてPTA会長、県高P連会長としてコロナ禍で年延期となり令和三年に開催した第七十回全国高等学校PTA連合会大会島根大会実行委員会会長と様々な立場で多くの貴重な体験をさせていただきまして。会長として関わった立場としては、PTA不要論もありますが、PTAは教育の最前線であり親としての責務を果たし親であり続けるための貴重な学びの場であると思っています。

最後になりますが、この度文部科学大臣表彰（PTA活動振興功労者表彰）をいただきましたことに對しまして、ともに活動をしていただきました県高P連役員のみならず、各校のPTA会長及び会員のみなさま、そして活動を支えていただきました県高P連事務局のみならず心から感謝申し上げます。



右から大屋さんと勝部さん(宮城大会にて)

「Many thanks」

前島根県高P連事務局長 勝部 昌幸

私事ですが、昨年の高P連全国大会での全国高P連会長表彰に引き続き、今年の全国大会ではPTA活動振興功労者文部科学大臣表彰を受けました。これも、島根県高P連会員の皆さまのご理解とご協力があったの事と思っております。特に、新型コロナウイルス感染症の中で開催準備をせざるを得ませんでした高P連全国大会島根大会では、皆さまの温かいお声がけやお気持ち、大会実施に向かうための勇気の大きな源となりました。本当にありがとうございました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

全国大会のあった仙台市からの帰り、福島県会津若松市の飯盛山に立ち寄りました。戊辰戦争の折、十六・十七歳で構成された白虎隊が会津城下が燃えているのをこの飯盛山から眺め、新政府軍の手によって鶴ヶ城が落城したと思い込み、全員が自決したというその場に立ちました。正義を盾にその時代をリードしようとする権力者たちの犠牲になるのは、今起っている世界各地の戦争・紛争を例にとっても、いつもこのような若者たちや一般市民です。会津藩の藩校「日新館」の教えに「ならぬことはならぬものです」があります。この教えも白虎隊の若き彼らの最期に影響を与えているとしたら、「命よりも大切なものはない」と語る教育こそがより大切ではなかったのかと、磐梯山を仰ぐ静かな城下町を見下ろしそんな思いがこみ上げてきました。

町中では会津の人たちの人なつこい人情に触れ、夕食ではアメリカンロックをこよなく愛するパブのマスターと楽しく会話をしながら、美味しい食事と会津のお酒とともに夜が更けていく一人旅となりました。

最後になりましたが、島根県高P連の益々のご発展をお祈りいたします。

第65回

中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 岡山大会
集まれば こころは晴れば 晴れの国
「集まる」「話す」の大切さ再発見

七月十四日(金)倉敷市の倉敷市民会館において、第六十五回中・四国地区高P連大会岡山大会が開催された。「集まれば こころは晴れば 晴れの国」「集まる」「話す」の大切さ再発見をテーマに、中・四国各県から約二百名、島根県から六十九名の会員が集い、熱心な協議が繰り広げられた。

開会行事の後、作家・写真家・建築家の稲葉なおと氏より「倉敷から始める家族旅」と題して記念講演があった。稲葉氏は岡山県内の「高校生の旅心を動かす二十一名建築」として倉敷市民会館、倉敷アイビースクエア、倉敷歴史民俗資料館、金光学園中学・高等学校記念講堂、作州民芸館、津山まなびの鉄道館、興譲館高等学校講堂など次から次へと名建築をその歴史と美しい写真とともに紹介され、「ぜひ高校生の子供と訪ねてみたい」と思われる大変興味深い講演であった。

昼食時には、高校生による生産物販売が行われ、クッキー、饅頭、ジェラート、おかし、ジャム、マスキングテープなど多種多様な品物が販売され、売り切れるほどの大好評であった。

昼食後、倉敷市内三つの高校(倉敷古城池高校、倉敷商業高校、倉敷翠松高校)の生徒による課題解決型学習(PBL: problem based learning)の発表が行われた。いず

れの発表も地域の課題を考え、その解決に向けた探究的な学びを深めていく取り組みで大変参考になる発表であった。

その後、研究協議が行われ、以下の高校のPTAによる発表が行われた。

○広島皆実高校PTA

「仲間と共に『不撓不屈』でのこころ!!」
「コロナ禍学校とPTAの初挑戦への軌跡」

「コロナ禍で学校行事が中止になる中、全校生徒約千人が参加する恒例の大運動会を無観客で開催し、保護者が見られるよう運動会の様子を撮影、編集し、ネット配信、さらにはDVD作成までPTAが行ったという発表で、PTAの新しい活動への挑戦の熱意があらわれる発表であった。

○徳島県立吉野川高校PTA

「地域に愛される学校」ともに挑んだ十年
「再編統合から十周年を迎えて」

生徒減により阿波農業高校と鴨島商業高校が十年前に統合し、吉野川高校が誕生した。新たなPTAの組織作りを行い、文化祭での焼き鳥販売を行ったり、様々な研修会(大学・専門学校への訪問、人権教育映画会、食に関する講演会及料理講習会、SDGs研修等)を開催し、交流を深めPTAの結束力を高めたことが報告され、学校の統廃合に伴うPTA活動の再編についてのご苦労が紹介された。

○倉敷南高校PTA

「運営の充実と協力体制により、学校の学びを支える」
「キャリアの学び・グローバルな学び」

地元の企業や施設から協力を得ながら

キャリア教育の支援を行い、地域や社会の諸問題を考える機会を設けた。また、姉妹校提携を結んでいる「ユー・ジー・ランド」の高校との相互訪問でホストファミリー募集を行った「英会話おもてなし講座」や貸し切りバスで歴史を学ぶツアーを計画するなどグローバル教育でのPTAの貢献が紹介された。

いずれの発表も大会テーマにある「集まる」「話す」ことの大切さを再発見する大変有意義な研究協議となった。

最後に閉会行事が行われ、来年の舞台高知県に引き継がれ、岡山大会は終了した。岡山県高P連の皆様のご努力により、コロナ禍からの力強い回復を感じられる見事な大会となった。



開会式



稲葉なおと氏 講演を終えて



「次年度は高知県」

第66回中・四国地区高P連大会 高知大会

とき 令和六年七月十二日(金)

ところ 高知市

テーマ

「はばたけ若人よ郷土の天空へ」
「みんなあゝが願いゆぜよ」

令和七年七月開催

第67回中国・四国地区
高等学校PTA連合会大会
島根大会について

令和七年に島根県で第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会が開催されます。島根県高P連では、六月に高P連総会、八月に第回準備委員会、十月に第二回評議員会を開催し、少しずつ準備を進めています。

○現在までの承認事項

一 趣 旨 高等学校教育の振興、高校生の健全育成および高等学校PTA活動の推進等に関する重要課題について研究協議する。

二 期 日 令和七年七月十日(金)

三 会 場 くびきメッセ

(島根県立産業交流会館)

四 研究協議の発表県 島根県、岡山県、

愛媛県

五 実行委員会会則(各単Pへ郵送済み)

○今後の準備予定(主な協議内容)

・令和五年十二月十六日 第二回準備委員会(大会テーマ等について)
・令和六年 月十七日 第三回評議員会(実行委員会、高知大会視察等について)

「コロナ禍後の有意義で島根らしい大会にしたいと考えていますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。」

カヌースプリントジュニア&U23 世界選手権大会出場 会長激励費贈呈

島根県立島根中央高等学校 カヌー部 河野 賢晃さん

イタリアアウロンツォサンタカテリーナ湖で開催されたカヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会に、日本代表として出場した島根中央高校カヌー部の河野賢晃さんに七月二十五日(火)、島根中央高校校長室で森山康仙高P連副会長が激励費を贈呈した。出場種目と結果は次のとおり。

○結果

- ・男子カヤックフォア500m 準決勝進出
- ・男子カヤックペア500m 予選敗退

河野選手には、左記のようにイタリア遠征時の手記を書いてもらった。

イタリアで開催された 世界選手権に出場して

島根県立島根中央高等学校
カヌー部 二年 河野 賢晃

私は、七月五日から九日にかけて、イタリアで開催された2023世界カヌースプリントジュニア選手権大会にカヤックペアとカヤックフォアの代表として出場しました。

結果は、目標とは程遠い予選九位、準決勝九位という結果に終わりました。三月に開催された海外派遣で選ばれた他県の選手と組んだわけですが、中々うまくかみ合わず苦労しました。一人ひとりの特徴が違う中で、精一杯合わせて、試行錯誤しながら自分の持っている力はすべて出し切りました。

大会を終えて、決勝レースをスタンドで観戦し

ながら、島根中央高校のことを考えていました。「この決勝の舞台に島根中央高校の仲間と出たい」。

毎日、言いたいことを言い、お互いがみんなを受け入れあって、本気でカヌーにぶつかっている島根中央高校の仲間と「必ず、来年は勝負する」と心に決めました。

私の初めての世界への挑戦は残念な結果に終わりましたが、大会に出場して、来年の世界選手権大会に向けて明確な目標を持つことができ、島根中央高校の仲間、環境に心から感謝をすることができました。

これからもたくさんの方々を支えて頂き、大好きなカヌーができていることを忘れずに努力していきたいと思います。本当にありがとうございます。



カヤックフォア500mのレース



カヤックフォアのメンバー（一番左が河野選手）



贈呈式

教育及び指導には伝え方が大切

令和五年度島根県幼こども園・小中・高・特別支援PTA合同研修会

十一月二十五日(土)、平田文化館を会場に、幼こども園・小中・高・特別支援学校のPTA会員百八十名高P連関係二十六名が参加し、合同研修会が開催された。講師は東京オリンピックで金メダル、ワールドベースボールクラシック(WBC)2023で優勝を果たした侍ジャパンコーチ清水雅治氏で、「教育及び指導には伝え方が大切」というテーマで講演をいただいた。以下にその概要を報告する。

○はじめに

一九九四年十月八日、後に「10・8決戦」と呼ばれる中日対巨人のセリク優勝決定戦の一回裏に先頭打者として二塁打を打ち、出塁したが、次打者がバント空振り、自分は飛び出してアウトになった。このときの失敗を含め、多くの失敗に学んだからこそ侍ジャパンの二塁コーチ(外野守備走塁担当)を務めた自分がある。

①「八二の法則」と④「四二の法則」

東京オリンピックの野球次リーグ日本対ドミニカ共和国戦で三塁コーチを務めたが、八回裏死二塁で吉田正尚選手の左前安打で二塁走者の山田哲人選手を本塁へ突っ込ませたがアウトになった。試合後「手を回すべきではなかった」と批判されたが、「〇〇は「理解できる」であった。物事には〇〇はない。何か新しいことをしよう」とすると四割が賛成、四割は無関心、一割は否定する。

②想いを真剣に、精一杯、伝える

侍ジャパン栗山英樹監督は宮崎キャンプで選手一人一人に手書きで手紙を書き、誠意を伝えた。このことで「この監督だらうって行こう」となりチームが一つになるきっかけになったと思う。

③本質を伝える

回りくどい言い方をしないことが大切だ。本当に伝えたいことを自分で理解しているか、本質を理解しているかが重要。WBC決勝戦前の大谷翔平選手が言った「憧れるのをやめよう」とは、「本質を伝える本当に素晴らしいスピーチだった」。

④冷静に

感情的にならず理路整然にしゃべる。それ、また言わ

せるのかでは伝わらない。伝えることが大事なのに感情的に言ってしまうと伝わらないことがある。

⑤見極め

相手が聞くことができる状況・状態にあるか見極める。「何度、同じことを言わせるのか」という姿勢であれば相手は聞く耳を持たない。言い方や口調も大切だ。栗山監督は「ありがたう、ありがたう。」と相手にいつも敬意を払って話をしていった。

⑥過信

常識を絶対だと信じてはいけない。以前、内野手は「かかとをあげて待ってあげ」と言われていたが、実際は逆で、かかとを下ろして待っていた方が早くボールに対応できる。地面を踏み張り動き出すので、かかとを浮かせていると遅れる。常識にとらわれすぎると新しいものが生まれてこない。

⑦子供は親の映し鏡

夕食時に指導者の悪口を言ったり、「お前はプロになれない」と言えば子供もなれないと思う。ドリーム・キラでは子供は親の志は育たない。ドリーム・サポーターとなつてほしい。高校野球は、甲子園が終着点ではない。野球を通して人間力をアップしてほしい。

講演の後、事前に提出していた質問や会場からの質問に丁寧に回答していただいた。

講演後の感想には「相手が聞く耳を持ていないと伝えることが多くなってしまう」と、「子供のドリームサポーターになれるように、子供と一緒に考える姿勢を心掛けていきたい」と思っています。

「子供に対して感情的になつてしまう場面が多々あります。冷静にならないと伝えられないことや子供は親の「映し鏡」という言葉に考えさせられました。」などであり今後の子育てや指導の参考となる研修会となった。



講演会の様子

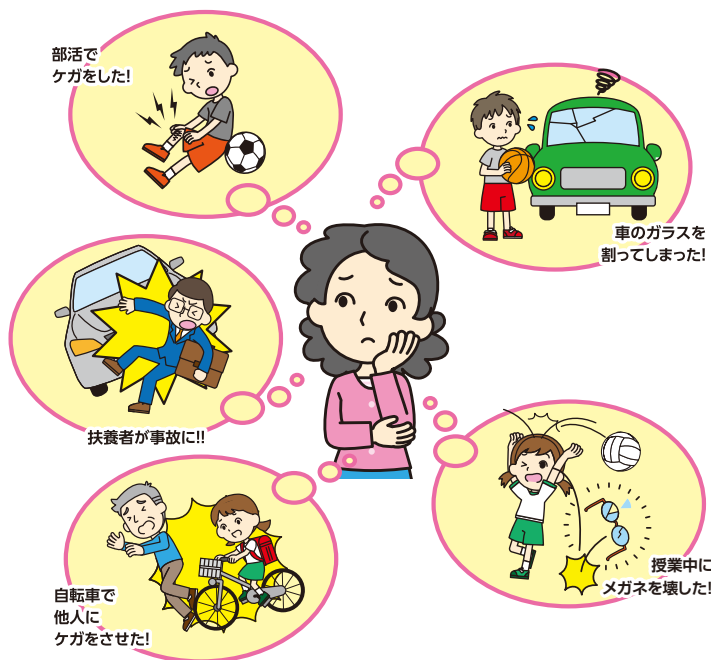
島根県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

(こども総合保険)

高校生の日常生活を 幅広くサポート!!

(詳しくはパンフレットをご確認ください。)



2023年1月現在の内容です。

選べる4プラン (2023年度版)

年間掛金【一時払】

Qプラン

18,540円

(1年分の掛金)

Mプラン

12,840円

(1年分の掛金)

Kプラン

8,000円

(1年分の掛金)

Jプラン

6,000円

(1年分の掛金)

総合保障制度の特長

※プランによってセットされている補償項目は異なります。総合保障制度の詳細に関しましては、パンフレットをご覧ください。なお取扱代理店・扱者または引受保険会社にお問い合わせください。

- 自転車事故でお子さまが加害者になってしまった場合の損害賠償責任も国内無制限補償!
- おケガは補償期間中、1日24時間(学校が休みの日も)補償!
学校部活動中はもとより地域のスポーツクラブでのおケガにも備えられる!
- 熱中症、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒を補償
- 学校の授業・登下校中などにお子さまが携行している身の回り品(メガネ、制服、タブレット端末等)を補償

(修理費または時価額のいずれか低い金額を補償します。自転車等一部補償対象外のものがあります。)

- オンラインで簡単に保険金請求(デジタル保険金請求)

※デジタル保険金請求の対象となる補償の有無は、加入者証にてご確認ください。

【取扱代理店・扱者】

東部地区、大田、邑智郡、隠岐郡、益田、鹿足郡

(有)メイジ (TEL 0120-001-230)

浜田、江津

(有)コテラ総合保険 (TEL 0855-28-2121)

【引受幹事保険会社】

AIG損害保険株式会社 山陰支店

松江市伊勢宮町519-1 松江大同生命ビル6F

(受付時間: 午前9:00~午後5:00 土、日、祝日、年末年始を除く)

TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776

京阪神方面に進学される
生徒・保護者の皆様へ

公益財団法人 島根県育英会

大阪学生会館

大阪府吹田市千里丘中58番10号

令和6年度
入寮生
募集中！

人数: 15名程度
期間: 令和6年
3/31まで

学生会館の良さ・安心

- ★朝・夕2食付き
- ★学生生活を見守ってくれる島根出身の館長夫妻が常駐
- ★相談できる同郷の仲間や先輩がそばにいる
- ★家具などが備え付けで初期費用が押さえられる
- ★近くに病院・コンビニ・スーパー・ホームセンターがある
- ★京都や兵庫の学校も通学可能なところが沢山ある
- ★静かな住宅地に立地

- 月額寮費 66,000円 (朝・夕2食付き)
- 入寮費 12万円または15万円 (最短修学年数による)
- 応募資格
島根県で生活経験があり、関西の大学・短大・大学院・高専 (4年生以上)、専修学校 (専門課程) に
在学中か令和6年度進学希望者 (進学先未決定でも申込可)
- 願書提出先
在学する高校又は出身高校。大学等の在学者は島根県育英会。

近隣のアパート暮らし等
に比べて割安！



募集案内



募集要項



通学圏内・
通学実績の
ある学校

交通機関
JR大阪駅 15分 → JR千里丘駅
JR京都駅 25分 → JR千里丘駅
JR神戸駅 50分 → JR千里丘駅
JR千里丘駅下車徒歩15分
阪急摂津市駅より徒歩20分



【お問い合わせ先】

公益財団法人 島根県育英会 TEL 0852-28-1981



〒690-0887

松江市殿町8番地3 島根県市町村振興センター3階

事務局だより

本誌でも紹介をしています、前高P連会長の
中村さんの講演を聞きました。介護知識
が無い頃の母親への介護体験と心の葛藤、介
護士になつてからのプロとしての体験、母親
の看取りの話等、講演していただきました。
みんな話して、介護ストレスを発散すれば
良いとも聞き、少しほっとした気持ちになり
ました。講演の後半では植物状態の人でも脳
が家族の声に反応すると教わりました。

数日後、私の義母の容態が悪化し、目は開
いているが意思の疎通ができない状態にな
りました。私は家族に反応が無くてみんな
の声は聞こえているので、面会に行つて声を
出して話しかけるようにと伝えました。主人
が小さい頃母が歌ってくれた「おぼろ月夜」
を枕元で歌うと、母の口元が動いて反応して
くれたそうです。講演のおかげで、感謝の気
持ちは伝えて送り出すことができ、心が少し
温かくなりました。子育てが終わつたら、次
は介護が待っていると言います。そして私も
いつかはされる側になります。「介護とは親
が命がけでする最期の子
育て」と、中村さんから教
わりました。自分のこれか
らを考えるのに、とても参
考になる講演でした。あり
がたでございます。

